プロジェクトアドベンチャー（ＰＡ）って何?

プロジェクトアドベンチャー（PA）とは?

プロジェクトアドベンチャーとは，冒険を基礎にして，個人の成長とグループ内の人間関係づくりを支援するものです。１９４０年代にアメリカのハーン博士が立案・創設を設立したのが始まりといわれています。全人的な人間教育を目指した教育手法です。現在ではアメリカを中心にして，世界各地にプロジェクトアドベンチャーの普及を目指した非営利教育団体が設置されるようになりました。

ＰＡの導入

秋田県教育委員会ではＰＡプログラムを学校教育や社会教育の現場に活用し，児童生徒，青少年団体等に利用してもらうために，県内の３つの少年自然の家に，用具設備を設置しました。

「ビーイングの作成」
活動中の気付きを、
日常生活につなげる

学校教育のなかで このように使えます！

〇子どもたちが仲良く，協力することができるように

〇学習指導の中にＰＡの手法を活用できるように

〇不登校等不適応行動が未然に防止できるように

ＰＡの基本理念は… そして「心の安全」

学習指導要領でねらう「生きる力」の育成に適した活動です。**課題に対して仲間とのコミュニケーションをとりながらみんなで解決していきます。**道徳や学級活動はもちろん，体育の「体ほぐしの運動」などとも関連づけることも可能です。学級開きの際に行う学校や，かつて研究指定校として毎月一回定期的に実施した学校もありました。その他チームワークを良くするために，サッカー等のプロチームの合宿や企業研修としても活用されています。

★フルバリューコントラクト（ＦＶＣ）

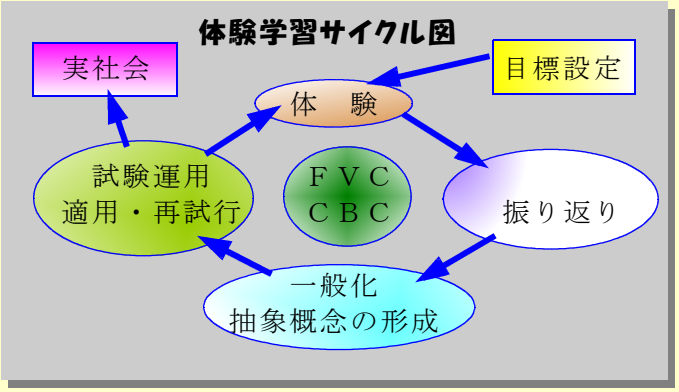
お互いの人格を最大限に尊重したり，お互いの努力を最大限に評価したりする（責めない・ばかにしない・認め合うなどの意識）。この約束事を「ビーイング」という方法で適切に表現し，メンバー全員で共有する。

★チャレンジバイチョイス（ＣＢＣ）

強制されるのではなく，自分で決めて行動する。「やらない」という選択肢も尊重する。途中で投げ出してよいということではない。

★体験学習サイクル

ＰＡをやってみて感じたことなどを話し合い，自他の良さや他人との関係に気づいていく。その気づきが意識化され，その後の行動に反映されていく。



PAから学ぶこと！

ＰＡは，さまざまな活動を行いながら，体験を通して次に挙げることの大切さを「気づき」として学んでいきます。

（１）目標をもつこと
（２）自分自身や他人を思いやること
（３）力の限り行うこと
（４）楽しむこと

「エレメント」ってなに？

プログラムを進めるために使用する体験器具のことです。

エレメント「ＴＰシャッフル」

ＰＡプログラムの段階と実践例

１　緊張をとく
ゲーム・レクリエーション

２　抑制をとく（ふれあい）
ゲーム

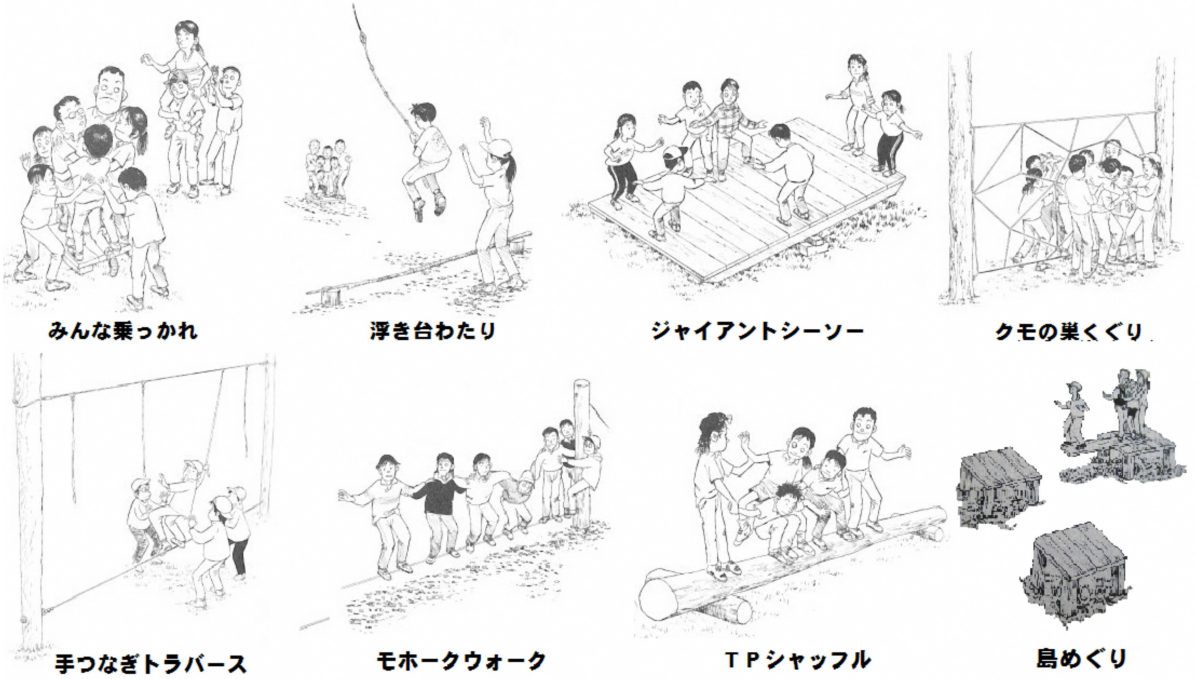
３　人間関係を円滑にする（コミュニケーション）
・クモの巣くぐり　等

４．信頼関係を構築する（信頼）
・ヒッコリージャンプ
・トラストフォール　等

５　社会的責任を担う
・ジャイアントシーソー
・大脱走　等

実生活へ

《わんパーク大館にあるエレメント》



他にも「テンショントラバース」「トラストフォール」があります。

＜Ｑ＆Ａ＞

Ｑ　**利用に適した学年や人数はありますか？**

Ａ　小学校低学年でも，目標レベルを調整して可能です。ただし，エレメントを使う場合は小学校中学年以上が望ましいです。１グループ１５人程度が理想的です。３０人をこえる場合は２グループに分かれて，グループごとに１名の自然の家職員が援助者（ファシリテーター）として担当することもあります。

Ｑ　**活動時間はどれくらいでしょうか？**

Ａ　野外のエレメントを使用してのプログラムを組む場合は、３時間以上がおすすめです。移動時間や振り返りの時間が必要になるためです。室内でのアクティビティを中心に実施する場合は１時間半～２時間程度でも対応可能です。参加者のアイスブレイクが主目的であれば、より短時間での実施も可能です。ご相談ください。

Ｑ　**危険ではないですか？**

Ａ　エレメントは定期的な点検をしております。職員の指示を守ってもらえれば，安全に実施できます。当所では平成１４年の導入以来，大きなケガは一度もありません。